



長崎街道木屋瀬宿記念館
〒807-1261 長崎県長崎市八幡西区木屋瀬三丁目16番26号
TEL 093-619-1149 FAX 093-617-4949



第30回 宿場まつり

30回目を迎える今回は特別企画として前好評の「英彦山津野神楽」に加え「豊前三毛門神楽」が初来演。さらに門司の「楠原踊」も伝承盆踊りとともに木屋瀬で華やかに舞い踊ります。

今年の宿場まつりは第30回の記念すべき祭りになります。平成4年に「木屋瀬の町並みや歴史と伝統文化」を伝えるために「みんなで踊ろう宿場をどり」をスローガンに木屋瀬の魅力を街内外にアピールする目的で始まった「まつり」で30回目を向かえます。(新型コロナウイルス蔓延防止対策の為2年間中止)

8月18日に木屋瀬自治区会・街づくりの会・老人クラブ連合会・商工連盟・商栄会・郷土史料保存会・宿場踊り振興保存会・青年会の八団体による実行委員会を立ち上げ、実行委員長に木屋瀬自治区会長の山田靖氏を選出し、引き続き各部長の選出を行い、今年の宿場祭りは実行委員長の発議により参加者の意

「梅が香や 垣根はらひし ひろき庭」
裏は辞世歌
「思案橋 こえてぞゆかん さやかに 父います国 母いますくに」
例えば、思考と気風を同じくして出発した「筑前木驛・茶目氣一輪」の仲間たちも、今では、商工連盟や氏子総代会、更には木屋瀬宿記念館運営協議会などで中核を与える立場となつて参りました。しかし、今でも変わる事の無い思考と気風による結束が、私共の誇りで有り、喜びとする処でございます。
つきましては浅学非才の徒集ゆえ至らぬ処も多々あるとは存じますがこれから木屋瀬という興味に満ちた土地に縁ある事を感謝し、今後更なる活動を展開していく所存でございます。皆様方にはご教導の程何卒宜しくお願い申し上げます。

第94回 街道のかみさま
～長崎街道の信仰と神事～
本展は、長崎街道とその周辺の町や村などで信仰の対象となっている神々について焦点をあてた企画展です。参勤交代の成立によって急速に整えられた長崎街道と宿場町が完成して以降、もしくは古代から同じ土地に住む人々が現在までどのような神々を祀り、信仰していたのか。また現在、長崎街道周辺の市町村にはどのような神社が存在しており、分布しているのかを調べ、その主要な祭神や祭神と土地に関する神事・信仰をまとめたパネル展を行います。
会期：令和6年10月26日(土)～12月15日(日)
時間：9時～17時30分(入館は17時まで)
入館料：一般240円 高校生120円 小中学生60円

第21回 筑前木屋瀬 今昔歳事記

紅屋泰助氏(故 柴田泰助氏)の「筑前木屋瀬今昔歳事記」の第21回目です。今回は、「ひろば北九州」平成23年2月号の行事・風物について、後編としてご紹介させていただきます。

〔筑前木驛・茶目氣一輪 について〕

地域文化の継承・育成の活動を推進

ところで、当地の伝統行事や芸能などの歴史的文化的財産の多くは宿驛時代に育まれたものです。当時の生活に密着した信仰に基づくものが多く、氏子中・講中などの奉賛組織や数寄者たちにより伝承されていくうちに形成されたものです。

それら宿驛往時の歴史的文化的財産は明治維新・洪水・大火の災害・石炭景気などにより大きく変遷。其の後、西洋文化の浸透・敗戦・物質文明の繁栄・当地産業経済の衰退などにより、歴史的文化的財産が途絶えようとして

した時期もありました。しかしながら、当地の先人たちは時代の変化と状況に合わせた柔軟な方策を打ち出し、伝統行事や伝承芸能などの歴史的文化的財産の保護・育成に務められました。

そのような経緯の為か、現在、宿驛往時の伝統が損なわれながら継承されている点は否めません。しかし何より意義深き事は、全町民が歴史的文化的財産の継承に携わり、親しむ環境にある事です。若い世代に歴史的文化的財産を通じて郷土に誇りを持つ気風が培われている事実です。

私もはこの気風こそ不彫さんをはじめとする当地先人たちの遺産であり、未来へと続く木屋瀬の「まちづくり」の根幹を為すものと確信し、伝統文化の継承と育成にお役に立つことを願って、さまざまな活動に取り組んでいく次第です。

活動開始から早16年。昨年は活動15周年を記念して、敬愛する岩井屋不彫さんを讃える句碑を須賀神社境内に奉納させて頂きました。句碑の表は五市合併による北九州誕生を謳った

見を聞き、協議で11月3日に行う事で決まりました。
9月16日に祭の世話人一同がこやのせ座に集まり「宿場まつり実行委員会」(全体会議)各部長から祭の準備状況と取り組み方針の報告が行われて、皆で一丸となって祭に取り組んで行くことを確認し、更に、今年30回記念なので祭の会場を変えて行う事になりました。
開会式会場は例年通り木屋瀬宿記念館広場とし前面の長崎街道では「宿場をどり」総踊りと町内綱引きのみとし、各地の伝承踊りは須賀神社境内で行う事になりました。また境内の参籠殿では、お茶の接待や絵馬の見学が可能です。
今回招待した国指定重要無形民俗文化財神楽「豊前神楽の三毛門神楽講」と昨年参加の「英彦山神楽」はこやのせ座で行う予定です。
新しく招待した伝承踊りは門司区旧門司一丁目「甲宗八幡神社」で奉納される市指定無形民俗文化財「楠原踊」、以前から参加している遠賀町「しあんばし踊り」、県指定無形民俗文化財「直方市「日和踊り」、同指定の植木「三申踊り」、市指定無形

いろはかるたのご紹介
む 六宿 内宿 岐れ道
木屋瀬宿は長崎街道(二十五次)の筑前六宿の一つですが、筑前内宿赤間街道(赤間・畦町・青柳・箱崎・福岡)へと通じる川越え追分宿でもございました。
「む」 六宿 内宿 岐れ道
「む」 六宿 内宿 岐れ道
「む」 六宿 内宿 岐れ道



わたしの昔話

木屋瀬には、子どもを主役とした恵比須祭がある。10歳の男の子が頭となり、祭りの一切を取り仕切る。わしのこまい頃（明治末期）は、寒念仏という行事もやりよった。

恵比須さんの十日程前になると、頭は腰に袋を下げ、それ以外の加勢人と呼ばれる子供たちは手に手に鉦を打ちながら、西へ西へとさして行く、西は最後の弥陀如来と念仏を唱えながら、底井野（現・中間市）や植木（現・直方市）やら方々に行きよった。

綿入れしか着たらんが、不思議と寒さは覚えたらんね。町の人々は「木屋瀬のおえ

寒さを忘れて寒念仏

べっさん、ようおいで下さった」と温かく迎えてくれて、餅やら米やらを袋に詰めてくれた。

神さまの祭り、恵比須さんで念仏を唱えるのはおかしなことと思うけど、神仏混淆のなごりやろうね。

帰ってくるよ、もううてきた餅を食べながら今日の反省をする。寒念仏は、寒さに負けん体作りと人情世情を勉強するいい機会やった。

神社はわしら子供にとつて、遊びの場であり、人生勉強の場でもあったわけやね。

夏は川で泳いで、冬は裸足で雪の上を走り回って、本当に元気な子供たちばかりばかりやった。

今の子供たちにも、のびのびと遊べるそんな機会を与えてやりたいと思っとるよ。

（市政だより八幡西区版掲載）

本町 柴田由美子

「柴田豊廣遺稿集」より



木屋瀬の文化と伝統が織り込まれた、木屋瀬ならではの歌留多大会です。新年恒例の行事ですので、子どもも大人も奮ってご参加ください。

▼日時 1月13日（月・祝）10時から
▼会場 長崎街道木屋瀬宿記念館
こやのせ座

木屋瀬いろは歌留多大会

イベントの詳細は木屋瀬宿記念館までお問い合わせ下さい

木屋瀬宿記念館収蔵品紹介 「手回しミシン」

ミシンの歴史は長く、現在の原型となった商業用ミシンは1800年頃に開発されています。その頃は主にヨーロッパ内の工場で使用されていましたが、この時に使用されていたのが「手回しミシン」という形態でした。時とともに小型化されていったミシンは、次第に家庭用製品としても売りに出され、日本では1860年頃から徐々に庶民の生活に進出していきました。

当館所蔵のこのミシンは、世界で最も古く広く知られたミシン製造会社であるシンガー社のものであり、1906～12年頃に購入されたものと判明しています。右横のハンドルを回して針を動かしている手動のミシンであり、片手が塞がってしまうので、少しコツが必要なものでした。当館の今年度の夏季企画展である「むかしの道具展」にて初出品しました。

（長崎街道木屋瀬宿記念館 学芸員 加藤 悠）

シリーズ 文化の薫る町木屋瀬

第十二回 こやのせ座 開館

こやのせ座は、長崎街道木屋瀬宿記念館の拠点施設の一つとして、江戸時代の脇本陣であった、長崎屋・薩摩屋の跡地に建設され、平成13年（1月1日）こやのせ座として開館しました。

前号で紹介しましたみちの郷土史料館は、住民の資料を展示する館で住民の関心も強い施設でしたが、ホールについては特別の構想はありませんでした。街づくり委員の中からホール建設検討委員会が作られ審議がなされました。委員の中から、人の集う場所は市民センターも小学校の講堂もあるとして必要性の是非についても議論がなされました。しかし、拠点施設には人の集う場所が必要との意見が強くありました。



昭和初期の芝居小屋「大正座」の面影を取り入れた「こやのせ座」外観。年間多種多様なイベントが開催される。

管弦楽団の創設など、音楽の父と言われるドイツの作曲家バッハを核として街づくりを兼ねた生涯学習、芸術文化の振興場としてホールを中心として行われ、成功例として全国から視察者が来館している」との紹介が

ありました。それだー声が挙がり木屋瀬は、大正、昭和の時代には、「大正座」という名前の芝居小屋があった。無声映画や芝居や漫才、落語、浪曲、歌謡曲等が開催され、楽しかった思い出がありました。日本の和の文化が消える今、木屋瀬に芝居小屋

ふうのホール建設が必要との結論を得て委員としての答えを出しました。

このような経過を得て建設された、こやのせ座です。だから名前にもこだわりました。当初提案された名前は、役所用語や外国語をもじったような、しゃれた名前などありましたが、紆余曲折を経て「こやのせ座」という一番木屋瀬らしい名前になりました。

外観については、大正座の図面が旧家から見つかり、提出して頂き参考にして建設されました。内部は、花道や升席は作られませんでした。芝居小屋のように座って見られるように床暖房も設置され音響設備・照明室もあり、舞台も広目にとり緞帳・楽屋も設置してあります。木屋瀬の伝統文化の宿場をどりの披露にも適し、毎年5月のゴールデンウィークには芸術祭として、この地域各所に古くから伝わる盆踊りを一堂の集め華やかに開催されています。

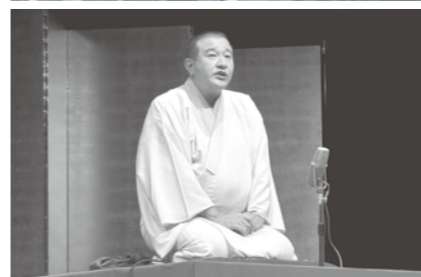
当初の目的である和の文化の継承ではまだまだ充分ではありませんが、開館のこけら落としには能の公演も厳かに行われました。

盆おどり昔懐かし芝居小屋
本町 野口靖彦

「たなばたまつり」「こやのせ座落語会」が開催されました！



毎年恒例である「たなばたまつり（8月）」と「こやのせ座落語会（10月）」を今年も開催しました。今年には八幡西区制50周年イベントとしまして、たなばたまつりでは折尾地区に在住の小学生を招待して木屋瀬地区の小学生と共に祭りを楽しみました。小学生と地域のボランティアが昔遊びや縁日などを通して交流するよいきっかけとなりました。



落語会では真打である北九州市出身の落語家・林家きく磨さんをお招きして、様々な演目を披露してくださいました。こやのせ座ホールの芝居小屋のような雰囲気も相まって、来場者には非日常体験をしてもらえたように感じました。

来年度も様々なイベントを開催予定ですので、ご都合が合えばお気軽に参加してみてください。